

ニューフェイス 2015

この春、図書館のスタッフに加わった新メンバーの自己紹介です。どうぞよろしくお願ひします。

初めまして、この4月から図書館勤務となりました岡本さやかです。

3月末までは教務課で術科や教職を担当しておりました。

音楽学学科出身の私は学生時代はおもに4号館で過ごしており、また職員になって間もなく配属された部署も4号館にあったので、そこに戻ってきたことが懐かしくうれしいです。

学生時代は資料探しでも図書館のお世話になりましたが、空き時間にAV資料室でお気に入りのCDを聴いたりして過ごすひとときが好きでした。職員になってからも、昼休みに一息つきたいときなど図書館へ足をのびしたものでした。

そんな図書館の内側を知ることで、自分の学生生活はこんなふうを支えられていたのだと改めて感謝の念をおぼえるとともに、自分がお世話になった分を、今度は自分が後輩や卒業生たちの力になることで返していくのかなと思いを新たにしました。

教務課から図書館へ来たことで、顔見知りの学生たちにも、「なんでここにいるんですか」と言われつつ、本部棟で見せるものとはまた違った表情で資料や自分の課題に向き合う姿を見せてくれたり、本部棟には寄ってこないけれど図書館にはやってくる卒業生に会えたり…日々新鮮な驚きやよろこびに満ちています。

ですが図書館員としてはまだまだ未熟者で、覚えること、勉強することが山積んでいます。学生からの質問にも鍛えられています。少しでも早くみなさんのお役に立てるように頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひします。

4月1日から、図書館に勤務する事になりました高橋京子です。以前は、附属中学高等学校の図書館に勤務していました。

自己紹介がてら、私と図書館という事で書いてみました。出会いは市立図書館で、次は小学校の図書室でした。図書委員に何となくなつた事をきっかけに、図書館が私の生活の近くにいつもあるようになりました。その後、中学校の6年間よく図書館に通いました。実は本を読むより、人に会うことが楽しみだったのではと思うほど、先生をはじめ、クラスや学年の違う友人と沢山出会えました。普段は厳しい先生方とも、図書館では色々な雑談をしたり、面白い本を紹介して頂いたり、私にとっては授業では味わえない「出会いの場」でした。

そして大学進学時、「国立音楽大学の図書館は是非利用すべき」という多くの方から助言を頂きました。入学後は図書館を利用するばかりでなく、アルバイトで「高田三郎書誌」という本を作る作業に関わりながら、司書の方々には色々な資料の探し方を教えて頂いたり、図書館のイベントに参加させて頂いたり、とても貴重な体験をすることができました。

中でも、前田昭雄先生（R、シューマン研究者で、現在上野学園大学学長）の講義では、初版本楽譜を細部にわたり検証するという内容で、表紙の図柄の変遷など今まで気にする事もなく見ていたものをじっくり観察する面白さを知りました。演奏する目的だけで見ていた楽譜から、作曲家や曲を知る手がかりの一つにもなる事を知り、世界を広げることが出来ました。

図書館には、色々な出会いがあります。資料と出会うばかりでなく、その先の人との出会いの場にも利用されるように願っています。